

## 山口県のウキクサ科

南 敦  
(山口県立柳井高校)

山口県で現在確認されているウキクサ科のものはウキクサ・アオウキクサ・コウキクサ・ミジンコウキクサ・ヒメウキクサ・チリウキクサの6種である。これらの山口県内での研究はまだはじまったばかりなので、研究の進捗につれて、種類もふえ、分布域もわかっていくであろう。

## 【ウキクサ】

県内到着所の水田・ハス田・溝などに生育し、県内のウキクサ科の中で最も広く多く分布する。

## 【アオウキクサ】

ウキクサ同様に到着所に多いが、ハス田ではウキクサほどでない。

## 【コウキクサ】

柳井市古開作の山口県立柳井高等学校北側一帯のハス田・溝はコウキクサの純群落またはミジンコウキクサやウキクサとの混合群落である。いままで山口県内の分布に関する文献や山口県立山口博物館での標本は見い出せなかったため、恐らく今回の発表が初記録となるであろう。筆者は柳井市古開作山口県立柳井高等学校北側ハス田1981.7.25採集の標本<21109>を1981.8.12に山口県立博物館に納入した。これに類似のものが岩国市や隣の平生町にもある。岩国市採集の標本<21180, 21182-3>は山口県立山口博物館に納入した。大滝末男・石戸忠著日本水生植物図鑑において「温帯から寒帯にかけて広く分布する」とされているが、柳井市やその近辺は照葉樹林帯で暖帯である。暖地性の強いヒメウキクサも混生している。

## 【ミジンコウキクサ】

柳井市古開作や岩国市にはハス田が多い。その殆んどに、単独、またはウキクサ科の他のものと混生し多産している。ハス田で純群落が多いのはミジンコウキクサがウキクサ科の他のものより陰生的であること、虫害の少ないこと、多肥料をこのむことなどのためであろう。山口県内でのミジンコウキクサの分布については以前からいくらか知られていて、話にされたり、栽培されたりした。しかし、いままで証拠標本は山口県立山口博物館になかった。文献の面では、中村清著「岩国のハス田の生物(1)ミジンコウキクサ」岩国短期大学紀要第9号1980

があるのみである。筆者も柳井一岩国のハス田から採集したものをごく最近山口県立山口博物館に納入した。...柳井市古開作山口県立柳井高等学校北側の溝、1981.7.5<20713>は1981.7.28山口県立博物館に納入。岩国市天地1981.8.20<21185>、岩国市平田向山1981.8.20<21186>、岩国市藤生1981.8.20<21187>、岩国市通津保津町1981.8.20<21188>、岩国市通津1981.8.20<21189>、玖珂郡由宇町有家1981.8.20<21190>のいずれも1981.8.23山口県立山口博物館に納入.....。以前から光市、防府市などで見ているが証拠標本は納入していない。

## 【ヒメウキクサ】

原寛先生は植物研究雑誌第51巻・第8号(Aug. 1976)において1976.4.6萩城跡の池で確認したことを報告しておられる。柳井市古開作山口県立柳井高等学校北側のハス田にはコウキクサと混って、コウキクサの $\frac{1}{100}$ 位生育している。証拠標本は柳井市古開作ハス田1981.7.25<21110>を1981.8.12に、岩国市平田向山1981.8.20<21178>を1981.8.23に、それぞれ山口県立山口博物館に納入した。岩国市ではただ一個所だけで見つかり、そこもごく少数あるだけであった。柳井市のヒメウキクサについていえば次のようである。葉状体は長倒卵形、先は丸いが一部分わずかにとがる。表面は緑色だが、葉縁のみは紫色。裏面は紫色。群体を一つ一つにはずした場合、50個の葉状体について、1個あたりの根の数は1本のもの8%、2本のもの46%、3本のもの28%、4本のもの18%、5本以上のものはなしであった。これは日本水生植物図鑑のデータと異なる。日照の少ない所で栽培の場合、葉縁や葉裏の紫色がうすかったり、なかったりする。

## 【チリウキクサ】

筆者が1974年山口県立下松工業高等学校前庭の池で見出したもので、大滝末男先生が同定並びに和名を命名されたものである。現在(1981.8.26)も全く純群落であり、よく生育している。現在のところ、県内の他での分布は見い出されていない。

末筆ながらチリウキクサ・コウキクサ・ヒメウキクサなどの御同定と数々の御教示を頂戴した水草研究会会長大滝末男先生並びに色々な文献の御恵与と御教示をいただいた宇部短期大学教授岡国夫先生に深甚の謝意を表わす。